大阪府高等学校教育支援センター
～これまでの活動から見えてきたこと～

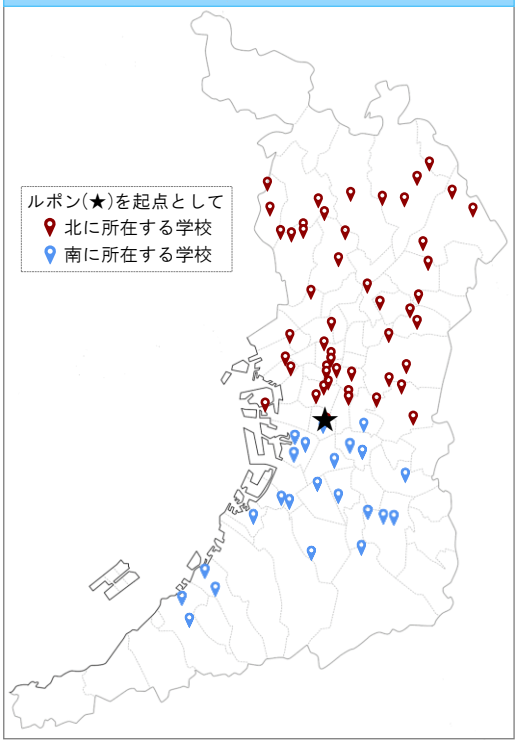
ルポン（Le pont）

（1）教育支援センター（ルポン）とは

- 大阪府高等学校教育支援センター（愛称：ルポン）は、登校の意志があるにもかかわらず登校できない状態にある高校生を対象に、学校復帰を支援し、社会的自立をめざして学習支援や心理支援等を行っています。
- 平成23年６月に開室し、令和５年度まで、75校のべ210名の生徒が利用しました。

設置場所	大阪府教育センター　本館５階
対象生徒	大阪府教育庁が所管する高等学校及び府立中学校に在籍している生徒
開室時期	５月初旬～３月上旬
活動内容	学習支援、心理支援
支援するスタッフ	指導主事、支援員、公認心理師/臨床心理士、学生協力員

ルポンを利用した７５校



入室するには

まず、本人・保護者・学校の先生の三者で見学をして、ルポンの利用を検討します。

入室前見学

入室前見学は、ルポンのことをよく知り、通室したいかどうかを判断するためのものです。
併せて、家から通うことが可能かどうかも確認します。

※ 実際に見学してみて、入室してみたいという気持ちを持てなかったときは、入室申し込みをする必要はありません。

本人・保護者 ⇔（入室検討／通室の目標設定）⇔ **学 校** ⇔（入室希望連絡／入室関係書類送受）⇔ **ルポン**

通室開始の準備

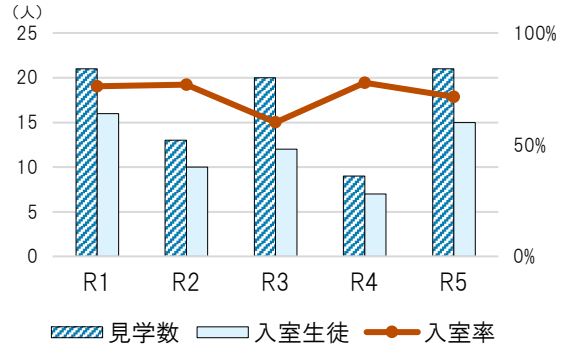
在籍校は、本人の状況に合わせた通室のペースや本人が希望する具体的な通室目標、また、通室した日の学校出席や成績の取り扱いに関することなどを本人・保護者と確認し、ルポンにも共有します。

通室開始

（2）データで見るLe Pont

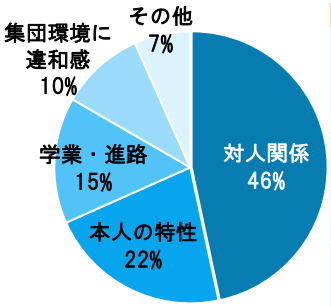
※R１～５年度の活動を基に作成

① 見学数と入室生徒数



➢ 見学したものの入室に至らない理由には、「遠い」「電車で通う自信がない」などがありました。

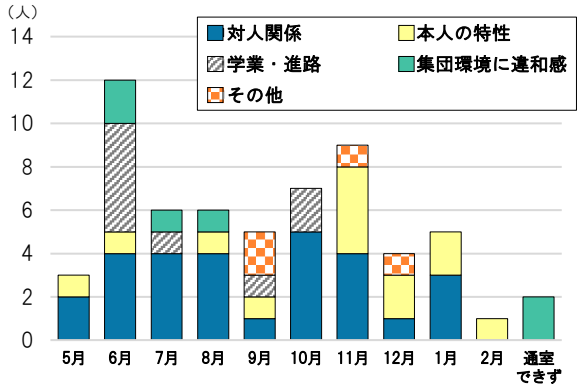
② 入室生徒の不登校の主要因



	分類の目安
対人関係	• 親しい友人ができない • 友人とトラブルになった • 対人緊張があり、友人関係を築くことが困難
本人の特性	• 障がい、疾病等がある • 思い込みが著しい
学業・進路	• 学習・課題・成績に対する過度なプレッシャー
集団環境に違和感	• 学校（集団）という場が辛い • 集団行動に拒否感 • 特定の友人関係は結べるが、集団で過ごすことが難しい

➢ 不登校の要因を見立てることは支援のために必要ですが、実際は難しいことです。ルポンでは、日々の関わりや個別面談を通して要因を見立て支援方法を構築し、生徒の変容に合わせて更新しています。

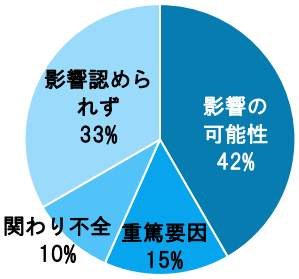
③ 入室月と主要因



➢ ゴールデンウイーク明けや夏季休業明けは入室の問い合わせが増え、６月や11月に入室する生徒が多くなります。

➢ 入室手続きまでしたものの、通室できない生徒の主要因はいずれも「集団環境に違和感」でした。

④ 家庭環境の影響

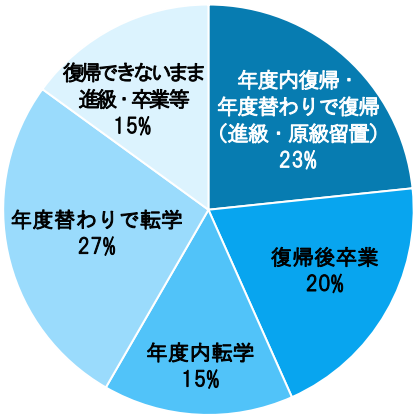


	分類の目安
影響の可能性	不登校の主要因は本人に起因しているが、背景要因として家庭内不和、離婚、本人との関係に課題、経済事情等がある
重篤要因	本人の現在の状況に大きく影響する要因（虐待、死別・離婚等による著しい喪失、本人の心情を著しく阻害する関わり等）
関わり不全	不登校の要因となるような過干渉・放任等
影響認められず	不登校の主要因・背景要因ともに影響が考えにくい

➢ 何らかの家庭環境の影響が不登校の遠因となっている場合、支援方針を作成するうえで配慮が必要です。

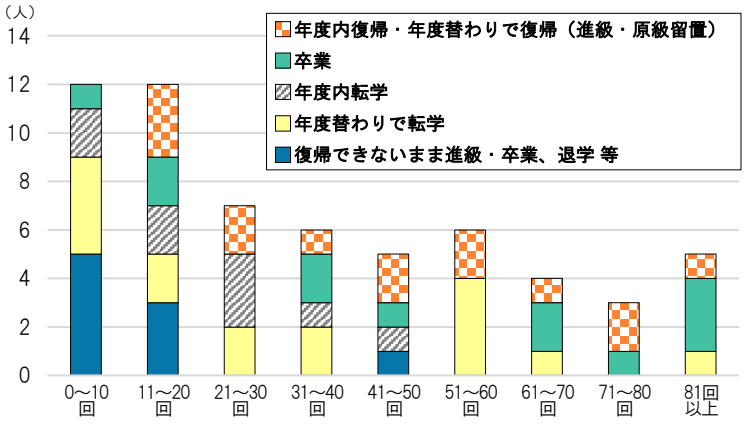
➢ 家庭環境の影響が不登校の主要因というケースもありますが、そうではない場合も多く、総じて要因は複合的に絡み合っているという状況でした。

⑤ 通室後の進路



➢ ルポンは単年度利用です。利用年度の３月末に決定した進路を表しています。

⑥ 通室回数と通室後の進路



➢ 通室回数と通室後の進路について、在籍校に復帰したり卒業したりした生徒は平均48回、転学した生徒は平均31回通室していました。

（3）日々の活動で見るLe Pont

※R１～５年度の活動を基に作成

１日の流れ

生徒の活動時間は、概ね9:30～15:00です。生徒は入室時に目標とする登室時間を決めて通室を開始します。活動が終了した後も15:30まで学習を続ける生徒もいます。

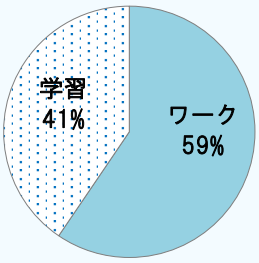
午前	学習	❖ 午前中は自学自習の時間です。生徒はそれぞれの登室時間やその日の体調に合わせて通室し、在籍校からの課題に取り組みます。課題の取組み時は学生協力員がサポートします。 ※学習中の休憩は各自で適宜取りますが、時間を決めてみんなでストレッチや植物の水やり等をすることもあります。日々の生活にメリハリがつき、生活習慣を整える一助になります。
昼休み		❖ 昼食後はカードゲームやボードゲームを楽しみます。ゲームの面白さは人とコミュニケーションをとる楽しさに繋がると考えられています。また、ゲームは行動と結果を何度も繰り返すことが可能であり、この繰り返しがゲームの教育的効果とも考えられています。 ❖ もちろんゲームに参加するかしないかは自由です。参加せず、静かに読書をしたり仮眠を取ったりする生徒もいます。
午後	学習または 心理支援ワーク	

※可能であれば、週に１度は在籍校に登校して、課題を受け取ったり担任と面談をしたりします。補習を受けたり、教室に入り授業参加にチャレンジしたりすることもあります。

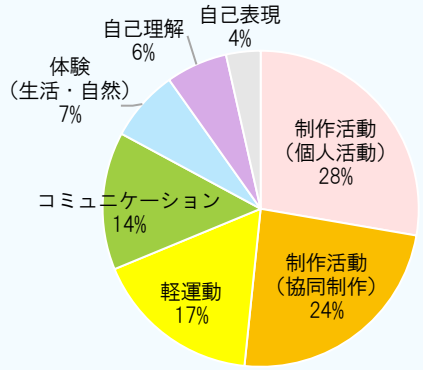
午後の活動について

① 午後の活動は学習？ワーク？

- ワークは心理支援のために行います。年間を通して６割程度はワークを実施します。
- ワークの内容は予め計画をたてて生徒に公開しています。多くの通室生徒が参加できるように、企画の際には学校行事や学校登校日に留意しています。
- 定期考査前や通室生徒が少ない時期は学習することが多くなります。また、在籍校の課題は生徒の単位修得の一助として用意されることもあるため、午前中だけでは時間が不足すると見込まれる場合、午後も学習時間とすることがあります。



② ワークの種類



種類	具体的な活動
制作活動（個人活動）	美術制作（切り絵、カラーワイヤー 等）、手芸 等
制作活動（協同制作）	影絵、模擬販売 等
軽運動	卓球、ストレッチ、ヨガ 等
コミュニケーション	絵しりとり、百人一首、漢字パズル 等
体験（生活・自然）	園芸、理科実験 等
自己理解	エゴグラム、リフレーミング 等
自己表現	俳句づくり、演劇 等

園芸活動で代々引き継がれているアサガオ

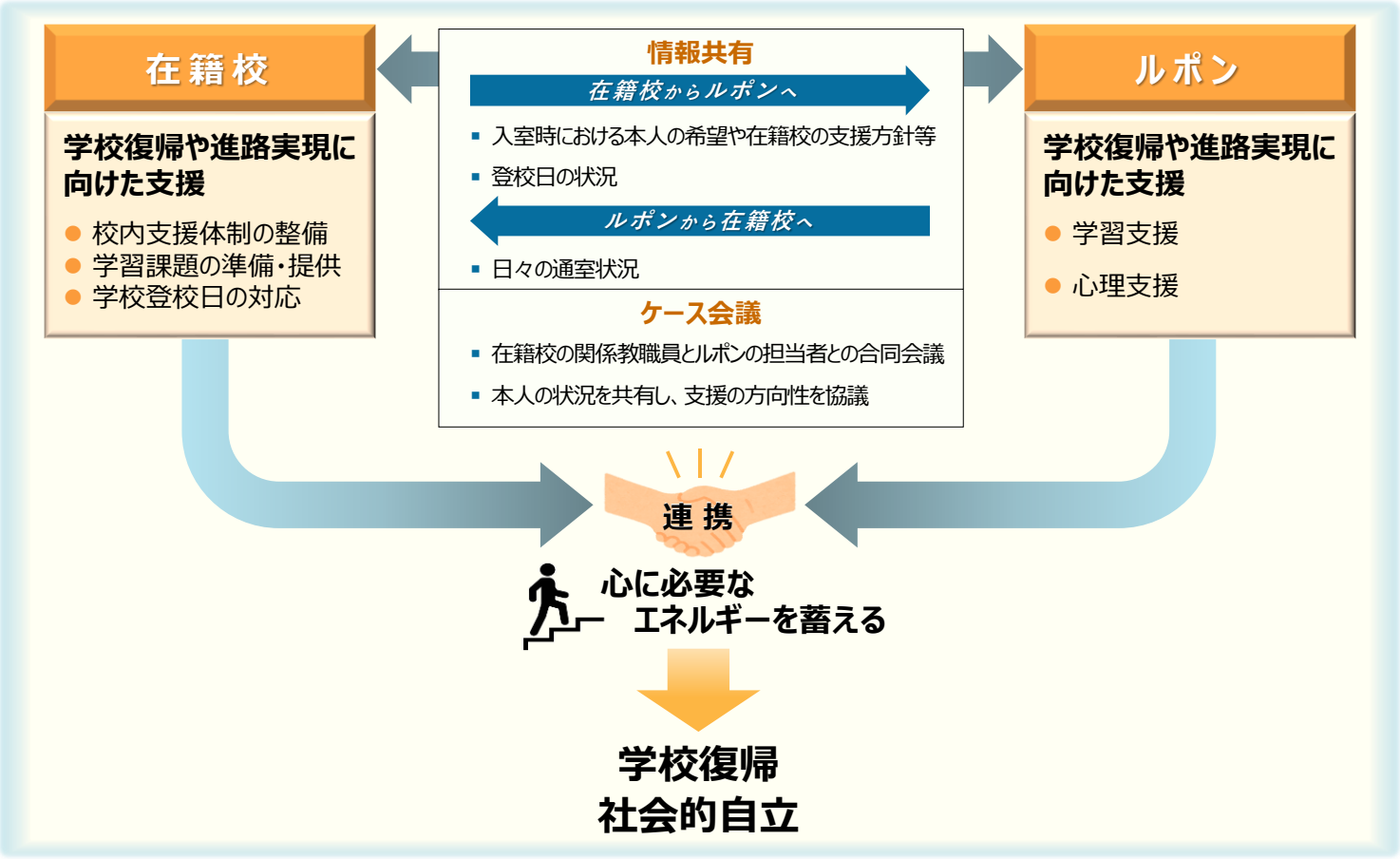
- 制作活動は、感情表現やコミュニケーションの手段となり得るものであり、「抑うつ・不安」「倦怠感」といった心理状態を改善すると言われています。併せて、作品を作り上げる達成感や他者から認められる経験等、様々な要因による相乗効果もあります。制作活動に際しては、緊張感が緩み制作に没頭できるよう、安心して取り組める場の提供が必要です。
- コミュニケーション活動や協同制作等、グループで活動する目的は、自己理解と他者理解を深めるとともに、自己と他者に対する受容性を高めることで対人関係を改善・促進させることです。不安や緊張状態が緩和されるとともに、集団形成による所属欲求が充足し、承認欲求の充足と自己肯定感の涵養により、学校生活において対人関係を良好にすることが期待されます。

保育園で上演した影絵

カラーワイヤー

（4）学校と連携するLe Pont

ルポンの不登校生徒支援は、通室生徒の在籍校と連携しながら行います。
連携するうえで最も必要なことは情報共有です。ルポンからは、日々の通室状況（学習・活動内容、生徒の様子等）や面談での様子を日々在籍校に伝えています。在籍校からは学校登校時の様子などを伝えていただいています。ケース会議では、情報を再確認したうえで支援の方向性を協議します。



（5）不登校支援Le Pont

- 生徒は不登校になる前から心身の不調を我慢していると考えられ、我慢できなくなって表出された不登校という様態がSOSです。SOSのサインを出している生徒、不登校となり登校したいと願っている生徒に気付いたら、すぐに手を差し伸べる必要があります。

  参考「不登校生徒支援のためのアプローチチャート～初期対応を中心に～」
  https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/investigate/publication/r04/approachchart.pdf

- 生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがあります。不登校という課題を生徒と一緒に向き合うということは、生徒のペースに合わせて伴走するということでもあり、時間が必要です。
- 一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクが存在することにも留意する必要があります。高校生の不登校は欠席日数や欠課時数が進級や卒業の要件に影響する場合が多く、学校に行かないことがそのまま卒業やその次の進学・就職にも影響を与えます。望んでいた進路や思い描いていた将来の夢が叶わないかもしれないという現実に直面し、自己否定的な考えや社会への拒否感など、二次的な影響もあります。
- ルポンの通室生徒は、在籍校からの課題や遠隔授業、補習や補講といった学習機会の充実とともに、心理支援を目的としたワークによって、少しずつ前向きな気持ちになることができました。
- ルポンでは、これからも学習支援と心理支援の相互作用を効果的に活用し、学校と連携して不登校生徒を支援します。

◀ルポンに関する動画はこちら
https://youtu.be/dr7smi2qUTs

令和７年３月
大阪府教育センター　教育相談室